朝刊・2023年10月28日（土）

「長寿企業」の知恵披露

岡山燈火会フォーラム 社長３人が意見交換

長寿企業の社長が経営のターニングポイントでの決断などを話し合ったフォーラム

地場企業が経営や社会課題の解決について学び合う「岡山燈火会」は27日、地方創生経営者フォーラムを岡山市北区下石井の杜の街グレースで開き、岡山県内で100年以上続く「長寿企業」の社長から、経営の知恵や葛藤を聞いた。

集成材大手・銘建工業（真庭市）の中島浩一郎社長、製塩業・ナイカイ塩業（倉敷市）の野崎泰彦社長、園芸機器メーカー・カーツ（岡山市）の勝矢雅一社長がパネリストとして登壇。事業を引き継ぐまでの経緯や、経営の岐路で行った決断について意見交換した。

勝矢社長は2010年ごろに円高が進んだ際、他社が海外に拠点を移す中で国内生産にこだわったことや、車両の電気自動車（EV）化が進む今でもエンジン開発に注力していることを紹介。「はっきりとした経営理念を決め、ぶれないことが大切」と述べた。

中島社長は、木くずを使ったバイオマス発電を1984年にいち早く導入した背景には、父から植え付けられた「もったいない精神」があったと説明。野崎社長は、97年の塩専売制の廃止で経営環境が大きく変わる中でも、積極的に設備投資を行ったことを振り返り、「安全で安心な塩を安定的に供給できれば、マーケットをつかみ続けられると考えた」と語った。

この日は約120人が会場で、約30人がオンラインで視聴した。（大島望）

©山陽新聞社　無断複製転載を禁じます。